



しんろだより

第5号 令和7年11月26日
米子養護学校 進路指導部

一人一人の能力を最大限に伸ばし、自立と社会参加に向けて、より豊かに生きる児童生徒を育成する

令和7年度鳥取県西部地区特別支援学校就労促進セミナー

『就労フェスタ』を開催しました

10月17日（金）に本校を会場に就労促進セミナーを開催しました。就労促進セミナーは、障がいに関係なく、希望や能力に応じて、誰もが職業を通じた社会参加のできる「共生社会」実現の理念のもと、一人でも多くの生徒が就労できるよう、皆生養護学校、鳥取聾学校ひまわり分校と3校合同で行っているものです。当日は企業、関係機関、保護者等、100名近い来場者があり、とてもにぎやかなイベントとなりました。

各校企画ブース

児童・生徒が企画・運営するブースを楽しみながら、「共にはたらく一員」として児童・生徒に対する理解を深めることを目的に、米子養護学校は「作業学習ワークショップ」を行いました。「組み木細工」や「さをり織り」など、日頃生徒が作業学習で取り組んでいる内容を来場者の方に体験・参観していただきました。



参加企業の方から

体験コーナーでの様子や実演を見て、やり方や声のかけ方次第でできる仕事がいっぱいあると感じた。

卒業生カフェ

米子養護学校、皆生養護学校の卒業生をゲストに招いて、卒業後の就労、生活についてお話いただきました。

Q.就労して苦労していることはありますか。

- ・学校では同じくらいの仲間で話が合ったけど、社会人になると同僚の年齢の幅が広くコミュニケーションに苦労しています。何とか円滑なコミュニケーションを取るよう努力しています。
- ・年々、仕事量が増えていて、仕事を任されているという満足感は得られる反面、締切までの仕事の組み立て方を考えるのが大変。仕事を人に頼むことができるようにしたいです。



参加された保護者の方から

実際に仕事をしていらっしゃる方から直接話が色々聞けるのが良かった。またこういう機会があれば来たいです。

企業講演「障がい者雇用のすすめ」

寿製菓株式会社の荒井様をお招きし、雇用までの取り組みや、卒業生の就労事例、一緒に働く方のコメントなど具体的なお話をさせていただきました。



【入社後のサポート体制】

- ① ジョブコーチさんや学校の先生方による定期面談・訪問支援
- ② 現場では担当者をつけ指導（交換ノート等でもやり取り）
- ③ 個々の特性に応じた環境整備・サポート
- ④ 給与は一般従業員と同じ

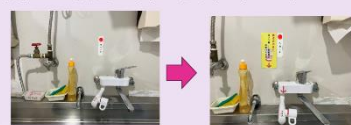


【事例紹介⑤】工場施設の改善

食堂のゴミ箱の分別がわかりづらい



食堂の水道の使用方法がわかりづらい



他工場から応援に来た人にもわかりやすくなった。
当たり前と思っていたことでも働きやすい職場づくりへの気付きに。

【事例紹介③】

一度に様々なことに対応するのが苦手

↓
1つの作業に集中

↓
理解できるまで手順書をもとに繰り返し説明

↓
わかりやすい手順書ができる

↓
他工場からの応援者への説明にも活用



【大事なポイント】

① 声掛け

困ったこと、不安なことがあると仕事に影響することもある変化に気づき声掛けすることで心が安定。

② 自立に向けたサポート

手取り足取りではなく、一人でできるようになるため、できる仕事を増やすためのサポートをする。得意分野を伸ばしてもらう。

③ 褒める～否定しない～

いいところを見つける。一緒に働く仲間をファンにする。障がい者だから特別にしていることではない。寿製菓の社風。



このようなイベントを通して障がい者雇用への理解がすすみ、子どもたちが働きやすい環境、職業選択できる機会が広がっていくといいなと思っています。

----- 切り取り線 -----

進路に関して知りたい情報がありましたら御記入ください

学部 小・中・高

名前

担任 → 各学部進路指導部